

図書館ニュース



「本と出会う」

学長 瀧上 凱令

この原稿を依頼されて、図書館は何をしたらいいかを改めて考えてみました。とりあえず、インターネットで調べてみると、図書館の機能は、資料の「収集」、「整理」、「保存」、「提供」となっています。これは図書館の側から見た機能です。「提供」を利用者の側から見ると「利用」ということになります。普通は、資料を探す（探してもらう）、読む（借り出す、コピーするなど）というのが基本的な利用法ということになります。

私の専門は心理学です。心理学は一般の人が思っておられるのとは違って、自然科学に近い学問です。したがって、研究の上での図書館の利用の仕方は自然科学の場合とよく似ています。必要な論文を検索し、そのコピーをどこかの図書館から取り寄せていただくという利用の仕方です。近年、学術雑誌の専門分野が細分化されるとともに、価格が高くなり、必要な雑誌を購読するのは大きな図書館でも困難になっておりますから、このサービスは私たちにとって非常にありがたいものです。幸いなことに、こんな雑誌をとっている図書館なんてないのではないかなと思えるものでも、日本中を探すとちゃんとあるものです。本についても同じです。心理学では本は研究のためというよりも講義のために利用することが多いのですが、必要な本を探してそれを利用するという図書館の基本的な利用法にしたがって大いに利用させていただきました。とくに絶版になってしまって手に入れることができない本などは大変ありがたかったです。

しかしながら、こういう利用の仕方には限界があります。学術論文の場合は読みたいと思う論文のタイトルが分かっていると利用できないということです。あるいはキーワードなどによってうまく検索できない

とだめだということです。本の場合は、著者名か書名が分かっていると探せません。ただし、何を探したいのか、何が必要なのかが分かっていると、著者名も書名も分かっていると、図書館の本はちゃんと分類・整理されていますから、分類にしたがって書棚に行ってみると必要なものが見つかることがあります。しかし、何を探したいのか、何が必要なのかが分かっているとということもよくあります。

買い物について考えてみましょう。たとえば、靴を買う時は靴専門店や百貨店の靴売り場などに行きます。いろいろ試してみたり、販売員の説明を聞いたりして、買ったり、気に入ったのが無くて買わなかったりします。しかし、靴を買うという目的ははっきりしています。調べたいことが分かっていると、図書館で関連のある本や資料を探すのと同じです。

一方、私たちは、買うつもりもなく商店街や百貨店を歩いていて、突然これがほしいというものに会って買ってしまうことがあります。図書館の利用法にも同じことがあるのではないのでしょうか。とくに何かを探す訳でもなく、書棚の本を引っ張り出して漫然と目を通して、「あ、これ面白そう」とか、「これ役に立ちそう」とか、思わぬ掘り出し物に出会うことがあります。図書館にはこういう利用の仕方もあります。買い物の場合は後でしまったと後悔することもあります。図書館の場合はそんなことはありません。読んでみたらそれほど面白くなかったとか、あまり役に立たなかったということはあるでしょうが、後悔するということにはならないでしょう。

図書館は面白い本に出会う場所、思いもかけない本に出会う場所でもあります。こんな利用法も試してみられてはいかがでしょうか。

「ケン君の志に想いを馳せて」

磯島 秀樹（幼児教育保育学科）

書斎を整理していた際に、ふと教え子であるケン君の「追悼集」が目に入った。大阪府八尾市にある市立養護学校、そこから私の教員生活は始まった。そこで、ケン君と出会った。ケン君は両下肢が不自由なため自立歩行はできなかったが、利発でとても口の達者な男の子であった。そのケン君を巡って忘れられない出来事があった。

養護学校の子どもたちは、市全域からスクールバスやタクシーで通学していて、居住地域の障がいのない子どもたちとの関わりは全くなく、地域から孤立していた。そこで、養護学校では、障がいのある子どもを知ってもらう機会を作るために、「校区交流」（在籍の子どもの居住地にある学校との交流学习）に取り組み始めた。

5年生の時に、私はその取り組みの一環として居住校区の小学校にケン君を連れて行った。小学校の子どもたちは、とてもあたたかく受け入れてくれた。そしてお別れの時、小学校の代表の子どもが、「早く元気になってください」と挨拶をして、手紙を渡してくれた。ケン君は、帰る途中、「よく元気なやけどなあ」と私に一言呟いた。その場面は、今でも私の脳裏に鮮やかに刻み込まれている。「元気になってください」は、その小学校の子どもたちの「初めて会った」ケン君への精いっぱい励ましの言葉であったに違いない。ケン君の一言は、私が教師として歩むべき方向性を明確に示してくれた。すなわち、「障がいのあるなしで分けられる」教育から「共に学び、共に生きる」教育をめざすべきだということ。

私は、小学校に転勤になってからも、障がいのある子どもを中心にした学級づくりに力を入れ、障がいのある子ど

もと障がいのない子どもが、共に学び、共に生きる実践に取り組んだ。障がいのある子どもが生き生きと過ごせる学級は、他の子どもたちにとっても楽しく過ごせる場となるからである。

私は、その後、再び養護学校教頭として戻ってきたのであるが、ある日、ケン君が共同作業所のメンバーとして、障がい者の仲間と一緒に作ったパンを売りに来た。障がいというハンディをものともせず、様々なことに挑戦して立派に成長したケン君の姿がそこにあった。その後、ケン君は障がい者運動のリーダーの一人として活躍したが、2001年3月に36歳という若さでその生涯を閉じた。

2006年の障害者権利条約が国連で採択されたことを契機にして、日本でもインクルーシブ教育（障がい者が差別を受けることなく、障がいのない人と共に生活し、共に学ぶ教育）の重要性が謳われるようになったが、政府は未だに障害者権利条約を批准していない。

私は、現在、社会福祉法人大阪府肢体不自由児者父母の会連合会の理事として障がいのある子どもたちの保護者と関わっているが、今改めて、ケン君の志に想いを馳せ、インクルーシブな社会の実現に向けて自分にできることは何かということを模索しながら、歩んでいきたいと思う。

なお、「インクルーシブ教育」に関する参考図書として『インクルーシブ教育への提言―特別支援教育の革新』（清水貞夫／クリエイツかもがわ）を挙げておきたい。一読いただければ、幸いである。

* 図書館所蔵



自著を語る

「自著を語る」

峯本 佳世子（生活環境学科）

2011年3月11日に三陸沖で起きた大地震は巨大津波をもたらしたという間に東北の沿岸部を呑み込んでしまいました。破壊されていく町、混乱状態の被災者の姿は映像を通して見ても衝撃的で辛いものでした。また被災者の数、とくに高齢犠牲者の実態も刻々と伝えられました。そのような中なんとか救援・支援に加わりたいと国の内外を問わず駆けつけた大勢の人々の存在もあります。

私の研究テーマの一つは災害における高齢者の問題です。きっかけは約17年前の1月の阪神淡路大震災の体験です。学生の皆さんにとっては、生まれる頃に起きた災害、今では地元でも話題にされることが少なくなっているかもしれませんが、それ以後、全国各地で起きる自然災害のニュースは後を絶ちません。私自身が阪神淡路大震災後に始めた仮設住宅へのボランティア活動、その後も継続的に被災高齢者の支援に加わる中で、次第にこの問題が私の研究対象となっていきました。もっとも深刻だった問題は、復興過程の高齢者は新しい生活環境に慣れることが難しく、そのまま孤独死に至ってしまうことでした。被災地では、この対策として高齢者を地域で見守る支援体制を整備していきました。神戸市では「見守り推進員」、阪神間の他の自治体では「生活援助員」（SCS）が、近隣住民や地元の民生委員たちと協力して高齢世帯へ安否確認訪問を

する、あるいは集会所等でお茶会、食事会などふれあいの場を持ち、生活支援をする専門職として配置されました。この支援体制は、その後の災害地でも、また全国の高齢化が進む地域でも、これから必要とされる地域支え合いの一つのモデルともなっています。このような一連の被災地の支援の変化等をまとめて阪神淡路大震災10年目に出版したのが、拙著「被災高齢者の生活復興と地域見守りの展望―震災10年から災害福祉を考える―」（久美、2005）です。

あれからさらに7年近い月日が経ち、今回の東日本大震災が起きました。大震災被災体験者として現地で生かせる経験や知恵はないだろうか、とすでに5回も東北に足を運んでいます。個人でできることは小さく非力なのですが、仮設住宅での「お茶っこ会」などで馴染みになった東北のお年寄り、現地の復興生活支援員からは、「忘れずにいてくれることが一番です」という言葉をいただき細々と支援活動を続けています。災害が多いわが国では災害に関する研究の歴史は古く、多領域の研究が蓄積されていますが、社会福祉学からの研究は意外にも少ないのです。減災を目指した安心・安全な地域社会づくりがすなわち超高齢社会に向けて日頃から地域で助け合えるしくみづくりになることをこれからの研究で実証していけたらと考えています。

「旅をおくる」

増田 美由紀（幼児教育保育学科）

寮で学生たちと生活するようになって、もう11年余となる。

本学の寮は単なる一般にイメージする「学生寮」とは違い、いわゆる「教育寮」である。したがって、学生たちは寮の規則にのっとり、お互いに役割をこなしていくことが求められる。

日本の各地から本学に通うために入寮してきている学生たちは、やはりそれぞれの「お国柄」をもっている。ことは然り、習慣然りである。

「習慣」の違いを考えると、私は葬儀のしきたりについての各地方の違いを不思議に思ったことがあった。まだまだ若い学生たちにはあまりピンと来ない儀式だろうが、人生において最も重要な儀式であると思っている。

少し前、『おくりびと』という映画が話題になったが、その中に「納棺師」という職業が出てきた。

初めて聞く職名だった人も少なくないと思う。この映画の原作は『納棺夫日記』あおき しんもん（青木新門 著）である。

作者の青木氏は、当初映画化に大反対だったそうだが、原作とは違う作品として映画を作成するのなら、という条件で承諾を得たそうだ。

たしかに、葬儀の儀式としての習慣はそれぞれの地方でさまざまに異なるが、おくる側の思いというのはどこでも

同じであろう。これは世界共通の“人として”の心である。その表現のしかたが地方によって異なるというだけの話なのだろう。この話の中で、求職中の主人公は、ある会社の「旅のお手伝いをする仕事です」というキャッチコピーに惹かれて応募する。

まさかその旅が死出の旅とはつゆぞ思わず…

しかし、思えば私たちが生きることも旅にたとえられ、また、このように死んでからのことも旅にたとえられる。かの芭蕉の文章にも「月日は百代の過客にして行きかう年もまた旅人なり」があり、これは中国の詩人李白の作品を基にしている。そして、とおく古代エジプト文明の栄えた紀元前3000年頃のミイラが納められた棺が舟形をしていたのも、すべては旅のためなのであろう。

生きる旅を終えた身近な人の新たな旅立ちをいかにするか、これは生きている私たちの大きな課題なのだろう。若い発想は、その旅を心地よいものにできるだろうか。

『納棺夫日記』

（増補改訂版）

青木新門：著

文藝春秋：発行



推薦図書

「あたりまえの大切さ」

堀内 泉（生活環境学科）

私はこの4月から約4年半ぶりに専任教員という立場で学生と関わることになった。第一子を出産後は非常勤講師として授業のみを担当していたのだが、このたびは介護実習巡回指導などを通して学生と「生活」をしっかりと見据えて、きめ細かに関わる必要が必要である。

そんなときに手にとったのは売上ランキング上位にあった「美しい人をつくる『所作』の基本」（枅野俊明著）という本である。美しいとか、魅力的な人はどこが違うのか？ということについて、本書では「立ち居振る舞い」の違いであるとされている。「立ち居振る舞い」のことを本書では「所作」と表現するのだが、著者はこの「所作」について『「所作」は「心」と深くかかわっているが、「心」を整えることに比べると「所作」は整えたり磨いたりすることが比較的やさしい』と述べている。

では、どんなことをすればよいのかというと、本書では生活場面を具体的に挙げて、簡単かつすぐできそうな例を挙げている。例えば、「朝、5分でもいいので掃除をする」「メールではなく直接話す」「どんな立場の人にも敬意を持って話す」などである。あたりまえすぎるようだが、介護福祉士を目指す学生にとって必要なことばかりなのである。例えば、掃除は介護をする人にとって利用者の生活観察のチャンスでもあるし、そのできようで利用者や家族に

対する信用を左右することになる。格好が悪い、汚い、面倒とか、マイナスにとらえられがちであるが決してそうではない。

トイレを掃除すると、今でも思い出すエピソードがある。かつて私が特別養護老人ホームで勤務していた時、夜間に利用者が使用したポータブルトイレ5～6台を朝から洗浄していると、おむつ交換の匂いなどをとても嫌がる利用者が近付き「ちょっとアンタ」と声をかけてこられた。私は即座に、『また臭いとか、汚いって言われるんだろうな…。』と思いながら顔を上げて利用者の方を見ると、「アンタ、ええ子が生まれるで！」と微笑みながら言い、車いすで立ち去った。利用者の心を読み違えた自身の反省もあったが、私の心はとても温かくなり、介護福祉士としてこの仕事を選んでよかったと思えたエピソードの一つになった。学生にも、あたりまえのことが自然にできるようになり、社会に出たとき心に残るエピソードがたくさんできる事を願っている。

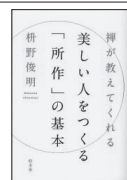
『禅が教えてくれる

美しい人をつくる

「所作」の基本』

枅野俊明：著

幻冬舎：発行



「図書館の思い出」

種子田（今井） 順子（幼児教育保育学科）

幼少時代、週末になると父と兄と私の三人で尼崎市立北図書館へ本を借りに行っていた。

私の身体が弱かったこともあり、両親は私に勉強もスポーツも強いてくることは全くなかったが、「本をたくさん読みなさい」とよく言っていたように記憶している。

図書館で借りてきた本を一週間に何度も読み返しては、再び図書館へ行く週末を楽しみにしていた。童話、伝記、推理小説などジャンルは様々で、小学校の図書室で借りてきた本も合わせると、一週間に五～六冊は読んでいたように思う。

モンゴメリ作『赤毛のアン』、灰谷健次郎作『太陽の子』『天の瞳』『兎の眼』など、今も大切に読み返す愛読書を読み始めたのは、小学校高学年だった。

中学・高校時代は、あまり図書館に足を運ばなくなり、お年玉を貯めては、作曲家の伝記などを読みあさった。幼い頃から、習い事はピアノのみだった。他の習い事は何もしたことがなく、塾には一度も行かなかった。勉強があまり好きでなかったこともあるが、勉強は学校の先生に習ったことと、それらの予習と復習だけで、わからないところは、いつも一つ年上の兄に教えてもらっていた。図書館の利用は、一人で勉強するためがほとんどだったように思う。

大学時代は、音大の中の図書館へ毎日通っていた。自分

自身が演奏しようとしている作品について知るため、作曲家や作品に関する分厚い本をたくさん抱え込んで、図書館で何時間も過ごした。楽譜に記載されている内容を理解するために、イタリア語、ドイツ語、フランス語のさまざまな辞書とも格闘した。音楽用語の語源、本来の意味を知って作品にアプローチできたことは、私の財産となっていた。今、それらを学生たちに還元出来ていることを嬉しく思っている。

社会人になってからは、友人たちとお勧めの本の情報交換をしては、楽しんでいる。現在の私のお勧めは、川畠成道著「耳を澄ませば世界は広がる」である。世界で活躍するヴァイオリニストである作者は、障害のある視覚の代わりに聴覚を研ぎ澄まして生活している。『聴く力』をつけるための『聴く心』を教わる作品である。是非多くの方に読んでいただきたい。

幼少期から多くの本に触れて空想の世界を楽しみ、何度も同じ本を読み返してきた。そして、現在の職場では、懐かしい絵本との再会があった。絵本の伝えたい内容をようやく理解し、楽しく感じて奥深さを知ることが出来て有難く思っている。

これからも多くの本と出会う心のゆとりを持ち、自分の視野を広げていきたいと思う。

図書館蔵書検索システムについて その①

図書館の蔵書は、学内だけでなくインターネットがつながっている状況であれば、どこからでもアクセス可能です。

- (1) 短期大学ホームページ (<http://www.koshien-c.ac.jp/>) をひらく
- (2) 図書館Libraryのコーナーをひらく
- (3) 「**図書館蔵書検索**」をクリック → 蔵書検索システム (OPAC) をひらく
- (4) **詳細検索**をクリック → 所蔵館を「短大」にする
→ 「書名」「著者名」「請求記号」などの欄にキーワードを入力して検索

「甲子園大学図書館」と表記されますが、指定すれば短大の蔵書が検索できます！

書名				AND
著者名				AND
出版者				
刊年	~	所蔵館	短大	
分類	全て	資料区分	全て	
言語	全て	出版国	全て	
請求記号	726.5	ISBN/ISSN		
新着図書				



詳細検索の蔵書検索画面を拡大すると、左の図のようになっています。

請求記号とは、図書（本）の背表紙に貼ってあるラベル（分類番号）のことです。図書館では日本十進分類法のに基づき、10の分野で本を分類しています。

0	1	2	3	4
総記	哲学	歴史	社会科学	自然哲学
5	6	7	8	9
技術・工学	産業	芸術	言語	文学

例とした「726.5」は絵本の分類です。500冊以上の蔵書があります！

<検索システム豆情報>

蔵書検索OPACシステム画面の左側にあるメインメニュー「開館カレンダーへ」をクリックし、さらに「短大」の文字をクリックすると、短大図書館の開館カレンダーのページにつながります。開館時間を確認したい時、活用してください。

書名や著者名がわかっている場合は、直接入力して、蔵書があるか調べることもできます。所蔵館を「大学」にして、甲子園大学から蔵書を借り出すことも可能です。

新 着 図 書 紹 介 目 録

この目録は、平成24年4月から9月にかけて図書館で購入した図書192冊のうち、各学科の先生方がぜひ皆さんに読んでほしいと推薦された図書の一覧です。分類番号の見方は、館内掲示の「本の探し方」を参照してください。

書 名	編著者名	発行所	分類番号	書 名	編著者名	発行所	分類番号
世界がもし100人の村だったら 完結編	池田 香代子 マガジンハウス編	マガジンハウス	304	パネルシアター どうぞのいす	阿部 恵	チャイルド本社	376.157
よくわかる社会福祉 第9版	山縣 文治 岡田 忠克 編	ミネルヴァ書房	369	不思議がいっぱい パネルシアター ー楽しいしかけのつくり方・演じ方	月下 和恵	アイ企画	376.157
介護職のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド	服部 万里子 編著	ひかりのくに	369.26	自閉症の息子 ダダくん11の不思議	奥平 綾子	小学館	378.6
高齢者のリハビリ 園芸クラフト ー季節の植物でかんたん手作り作品ー	いばらき園芸療法研究会	㈱QOLサービス	369.26	草花遊び図鑑	小林 正明 著 小林 茉由 画	全国農村教育協会	384.55
いま考えたい災害からの暮らし再生	山中 茂樹	岩波書店	369.3	植物による食中毒と皮膚のかぶれ	指田 豊 山中 秀夫 共著	少年写真新聞社	471.9
教育学用語辞典 (第4版：改)	岩内 亮一 本吉 修二 他編集代表	学文社	370	早引き 介護のための 医学知識ハンドブック	高瀬 義昌 監修・著	ナツメ社	490
最新教育原理	安彦 忠彦 石堂 常世 編著	勁草書房	371	しくみと病気がわかる からだの事典	田沼 久美子 益田 律子 他監修	成美堂出版	491.3
わが国にみるフレーベル教育の探求	酒井 玲子	共同文化社	371.234	早引き 介護のための 薬事典	苛原 実 監修・著	ナツメ社	499.1
北欧の消費者教育 ー「共生」の思想を育む学校でのアプローチ	大原 明美	新評論	372.389	スウェーデンに学ぶ 「持続可能な社会」 ー安心と安全の国づくりとは何か	小澤 徳太郎	朝日新聞社	519.1
新しい教育の方法と技術	篠原 正典 宮寺 晃夫 編著	ミネルヴァ書房	375.1	100,000年後の安全	<DVD>	アップリンク	539.69
正しいパンツのたたみ方 ー新しい家庭科勉強法	南野 忠晴	岩波書店	375.5	かんたん!愛情手作り 布えほん・布おもちゃ	いしかわ まり こ	主婦と生活社	594
新保育士養成講座<第1巻> 保育原理	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	かんたん!愛情手作り てぶくろえほん・てぶくろお もちゃ	いしかわ まり こ	主婦と生活社	594
新保育士養成講座<第2巻> 教育原理	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	手作り布の絵本と遊具 こんちゅうえあわせ	野口 光世	偕成社	594
新保育士養成講座<第3巻> 児童家庭福祉	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	手袋でつくるてぶぐるみ	笹川 勇	池田書店	594.9
新保育士養成講座<第4巻> 社会福祉	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	文明を変えた植物たち ーコロンブスが遺した種子	酒井 伸雄	NHK出版	615
新保育士養成講座<第5巻> 社会的養護	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	光とともに…<1>～<10> ー自閉症児を抱えてー	戸部 けいこ	秋田書店	726.1
新保育士養成講座<第6巻> 保育の心理学	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	ヘルプマン11～12巻 認知症編		講談社	726.1
新保育士養成講座<第7巻> 子どもの保健	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	ヘルプマン13～15巻 介護職員待遇編	くさか 里樹	講談社	726.1
新保育士養成講座<第8巻> 子どもの食と栄養	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	ヘルプマン16～17巻 セカンドライフ編	くさか 里樹	講談社	726.1
新保育士養成講座<第9巻> 保育実習	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	ヘルプマン18～20巻 成年後見制度編	くさか 里樹	講談社	726.1
新保育士養成講座<第10巻> 家庭支援論	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	あっちゃん あがつく	さいとう しの ぶ	リーブル	726.5
新保育士養成講座<第11巻> 保育内容総論	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	まるまるまるのほん	エルヴァ・デュ レ	ポプラ社	726.5
新保育士養成講座<第12巻> 保育者論	新・保育士養成 講座編集委員会	全国社会福祉協議 会	376.1	やさしい弾き歌い75 ー保育者のためのよく歌われる子 どもの歌	植田 光子 岡本 成美 他編著	音楽之友社	767.7
0～5歳児の指導計画の 書き方がよくわかる本		ひかりのくに	376.15	超ビギナーのための 1000円アレンジブック		角川マガジンス	793
うきうきごきげんシアター ーパネル、ペープサート、いろいろ ユニークなシアターがいっぱい!	新沢 としひこ	学習研究社	376.157	漢検過去準2級・3級問題集 <平成24年度版>	日本漢字能力検 定協会 編	日本漢字能力検 定協会	811.2
世界の歌を遊ぶ リトミック・ゲーム67選 ーボディ・パーカッションから音楽表現まで	神原 雅之 編著	明治図書出版	376.157				

『アイ・アム・サム』 (クリスティン・ジョンソン 著／竹書房)

生活環境学科Ⅰ回生1組 田中 江利菜

この物語は、知的障害を持った主人公と娘の物語です。主人公のサムは知的障害のため七歳程度の知能しかありません。そんなサムには娘のルーシーがいます。母親がサムの元を去っていったため、彼が一人で彼女を育てました。サムとルーシーは大の仲良しです。しかし、サムには教育能力がないと判断されてしまい、ルーシーは施設に入れられてしまいます。そこでサムは彼女を取り戻すべくエリート弁護士のリタとともに裁判に臨みます。果たしてサムは自分が立派な父親である、ということを実証できるのだろうか…というお話です。

この本を読んで、私は国が違っていても、どこも同じように「障害者」と「健常者」との壁があるのだと考えました。また、「健常者」は「障害者」を差別の目で見ていたのだと思いました。サムは、七歳程度の知能しかないものの娘のルーシーをとても愛していたし、とても気の利く優しい心の持ち主です。そんな人にでも「障害者」という三文字の言葉が壁を作ってしまうのは悲しいことです。最近、育児放棄や幼児虐待が多くあります。知能が高くても、「健常者」であって子どもを愛していない親や子どもに手をあげる親がいます。そんなひどい親よりもサムのように愛をもって子どもを育て接することができる人の方が人として、親として、とても立派だと私は思いました。しかし、どんなに立派であっても「障害者」という事実は変わることなく、周りからも普通ではない、というように見られてしまうのだと悲しくなりました。

また、サムはコーヒーストップで仕事もしています。タンブラーやカップのマークをそろえたり、砂糖などの紙を色別に分けるという細かなことを毎日かかさずやっていました。世の中には、細かなことは少しくらい分からないだろう、と思って手を抜いてしまう人がいると思います。しかし、サムはそんな事は考えもせず毎日毎日、かかさずにやり遂げました。初めてお店にきたお客さんの中には偏見をもつ人もいたけれど、一生懸命なサムに常連のお客さんはいつしか偏見をもたなくなっていました。サムのような人に出会えば「健常者」と「障害者」のような言葉が気にならなくなるのではないかと、思いました。

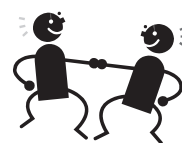
私は、この本を読む前から障害者や健常者という壁が気に

なっていました。最初、本を読んでいてルーシーとサムを離れ離れにするなんてひどい、と思っていました。しかし、中盤にさしかかるあたりで、ルーシーが父親を追い越してしまうことを恐れ勉強しなくなったり、サムが時々、発狂したり混乱するとルーシーが大変な思いをすると弁護士が問題にしました。その時私も、どうしよう、その通りだ、と思いました。しかし、最初の方にサムの家の隣人であるアニーがルーシーのミルクの時間を覚えさせるのにテレビの番組で覚えさせるシーンがありました。そうすればサムも覚えることができるし、よく考えているなと思いました。また、サム自身が「サムには無理だと思ってるんだね。ぼくの弁護士がそんなことを思ってるんじゃない、裁判に勝てないよ」と弁護士に言った言葉が印象に残りました。サムは自分の考えをはっきり言い、どんな思いで裁判をしてほしいのか、という気持ちを持っていて立派だと思いました。弁護士はこのサムの一言で、だんだん考えが変わっていききました。この物語の中では「障害者」だと見下していた人が「障害者」に教えられることがたくさんありました。このように皆が協力し、工夫し、向き合っていけばいいのではないかと私は考えました。そうすれば「健常者」と「障害者」との関わりが増えるし、「障害者」には無理だという決めつける考えが少なくなるのではないかなと思いました。

私はこの本を読んで、とても考えさせられました。差別なんてひどい、と思いつつも正直、「障害者」に子育ては無理なんじゃないか、という気持ちがありました。愛だけでは、どうにもならないこともあるけれど、サムのように真面目に一生懸命生きている人の周りにはたくさんの仲間がいました。そんな仲間が助け合い、サムとルーシーの子育てを手助けすることで、二人は引き離されることなく親子として生活することができます。最後はサムもルーシーも子どもも大人も関係なく楽しそうに笑い合うシーンで終わりました。「健常者」、「障害者」という言葉などなくなったかのように私は感じました。だから私たちが「健常者」と「障害者」の壁を作らず、「障害者」には無理だという決めつけをなくし、助け合いをしながら生活していくことが大切なのではないかなと思いました。

〔評〕「健常者」と「障害者」の壁、社会的な差別にまで踏み込んで考えて意見を述べる事ができています。

田中さんのこの感想文を読んだ人たちが、助け合いながら生活していくことを考え、差別をなくす想いが広がっていくように願っています。



読書感想文・課題図書より

この目録は、Ⅰ回生対象の平成24年度読書感想文・課題図書の一部です。Ⅱ回生にも読んでもらいたい本が推薦されていますのでご紹介します。

書名	編著者名	発行所	分類番号
オオカミ少女はいなかった	鈴木 光太郎	新曜社	140.4
きっと君は変わるさ	秋元 康	幻冬舎	159
こころの処方箋	河合 隼雄	新潮社	159
知らない恥をかく世界の大問題	池上 彰	角川マガジンス	319
暴走育児	石川 結貴	筑摩書房	367.3
子どもが育つ条件	柏木 恵子	岩波書店	367.3
盲導犬クイールの一生	石黒 謙吾	文藝春秋	369.27
ベルナのしっぽ	郡司 ななえ	角川書店	369.27
子どもをナメるな	中島 隆信	筑摩書房	370.4
子どもの宇宙	河合 隼雄	岩波書店	371.45
人類が生まれるための12の	眞 淳平	岩波書店	440

書名	編著者名	発行所	分類番号
左手のコンチェルト	舘野 泉	佼成出版社	762.1
心を整える。	長谷部 誠	幻冬舎	783.47
恋の手紙 愛の手紙	半藤 一利	文藝春秋	910.26
ハッピーバースデー	青木 和雄	金の星社	913.6
阪急電車	有川 浩	幻冬舎	913.6
博士の愛した数式	小川 洋子	新潮社	913.6
せんせい。	重松 清	新潮社	913.6
人間失格	太宰 治	新潮社	913.6
こころ	夏目 漱石	岩波書店	913.6
星宿海への海	宮本 輝	幻冬舎	913.6
いのちのハードル	木藤 潮香	幻冬舎	916

図書館ガイダンス報告

図書館ガイダンスⅠ・クラス別受講者数
実施時期：平成24年5月7日～5月25日

学科	Ⅰ回生		Ⅱ回生		学科別
生活環境 学科	1組		1組	25	61
	2組	13	2組	23	
幼児教育 保育学科	1組	34	1組		34
合計	Ⅰ回生	47	Ⅱ回生	48	95

図書館ガイダンスⅡ・クラス別受講者数
実施時期：平成24年10月1日（月）～10月26日（金）

学科	Ⅰ回生		Ⅱ回生		学科別
生活環境 学科	1組	19	1組		19
	2組		2組		
幼児教育 保育学科	1組		1組		0
合計	Ⅰ回生	19	Ⅱ回生	0	19

図書館では、4月の新入生対象オリエンテーションで図書館の利用方法についてガイダンスを実施する他、毎年5月と10月に希望学生を対象としたガイダンスも実施しています。平成24年度のガイダンス参加者数は上記の通りでした。以下にガイダンス内容をご紹介します。

<ガイダンスⅠ>

①図書館の本を探そう

- ・日本十進分類法って何？
- ・書名目録カードを上手に活用しよう！

②インターネットを使って情報収集してみよう

- ・効果的な検索キーワードを見つけよう！
- ・他図書館の蔵書も検索してみよう！
- ・実習先や就職先の情報、どうやって調べるの？

③相互貸借・文献複写について

- ・雑誌論文を探してみよう！
- ・図書館に文献がなかったらどうするの？

④著作権について知っておこう！

- ・引用文献と参考文献、どこが違うの？



<ガイダンスⅡ>

ガイダンスⅠに参加した人には、以下から選んでもらいました。

- ①辞書のひき方についておさらいしてみよう！
- ②著作権について詳しく知っておこう！

今年度は先生方の協力を得て、授業時間内に情報処理室で一斉にガイダンスを行いました。たくさんの方に図書館の活用法を伝えることができて良かったのですが、授業時にガイダンスを受講するとそれだけで満足し、さらに個人で受講しようという気持ちにまではならないようです。昨年度の反省点をふまえて時間帯の延長もしましたが、残念ながら個人受講者はいませんでした。

ガイダンスⅠの受講者が多かったので、ガイダンスⅡでは内容を再検討し、辞書や事典の使い方、著作権についても取り入れてみました。

以下に、著作権についてのガイダンスを受講したクラスの感想を掲載します。このクラスでは、社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会からリーフレットを取り寄せてもらい、音楽の違法ダウンロードやビデオソフトのダビングなど身近な話題を取り入れつつ、ネット検索の注意点などを説明したところ、とても熱心に受講してくれました。

図書館では、今後も学生の皆さんが望むガイダンスを検討していきたいので、どんなガイダンスを受講したいか、リクエストをお待ちしています。カウンターへ気軽に声をかけてください。

図書館ガイダンスに参加して

ダウンロードしてはいけないことは知っていたけれど、お金を払ってもらう場所で、曲を流しただけでも著作権の侵害になる場合があることは知らなかったの、勉強になりました。

地元の図書館にもたくさん本が置いてあることがわかりました。S.I.

著作権の問題は、とても難しいことだけれど、ちゃんと知らないと大変なことになるので、知っておこうと思いました。法律のことについても興味があるので、少し勉強してみたいと思いました。

いろいろな検索方法も知ることができたので、今後に活かしたいと思います。M.I.



図書館の利用が、今ではインターネットでできると知って、びっくりした。図書館に行かなくても、本が置いてあるかどうかがわかって、すごく便利だなと思った。また、著作権もすごく複雑で、よく理解しておかないと、自分が罪を犯してしまう可能性もあるので、気をつけないといけないと思った。S.A.

他にも著作権の厳しさに驚いたという感想が多く寄せられました。知らないうちに違法ダウンロードしてはいませんか？
気になる人は図書館までどうぞ！！



読書感想文 入選者と書名

優秀作	生活環境学科	1組 3番	田中 江利菜「アイ・アム・サム」
佳作	幼児教育保育学科	1組28番	増田 佳奈「“I t” (それ) と呼ばれた子」

読書感想文の書き方

夏期休暇中、1回生全員を対象に図書館から出される読書感想文の課題は、初代斎藤学長が「読書は人生を創り、人生を変えるすばらしい力がある」ことを説かれ、その実践教育のひとつとしてはじまりました。自分の言葉で素直な感想を綴ることにより、文章力や表現力も高めてもらうという目的があります。

しかし最近はインターネットの発達により、自分の言葉（文章）ではなく、他人の言葉（文章）を無断で借りて感想文を作成する人が出てきました。書き手がプロであっても、アマチュアであっても、発表された（紙に書いた・ブログ等をインターネットでアップした）時点で「著作権」が発生します。写す部分が全文ではなく一部分であっても、無断拝借をすれば盗作、場合によっては10年以下の懲役又は1000万円以下の罰金が生じることもあります。著作権侵害とは犯罪行為なのです。

参考にすること（読むだけ）と、引用すること（写すこと）は違います。参考にするのはかまいませんが、一部分でもその文章を使う場合は引用です。引用部分を「」でくくり、このように書いている人がいた、と引用先（新聞誌名やネット掲載先のアドレス）を明記しておけば、著作権の侵害にはなりません。ただし、大幅に抜粋して書き写すことはモラルを問われる行為です。節度ある引用を心がけてください。本の帯などに掲載されている紹介文も無断で写せば著作権の侵害になります。気を付けましょう。

では、感想文とは何をどのように書けばよいのでしょうか？

どうやって書けばよいかわからない…という人は、以下を参考にしてみてください。

<1>感想文の類型

感想文の書き方に定型的なものはありません。ただし、書きやすさからいえば、次のような型があげられるでしょう。

- (1) 本のストーリーのあらましと感想を書く。
- (2) 自分が、その立場に立ったら…として書く。
- (3) 自分の生活や体験と比較して書く。
- (4) 作中の人物に語りかけて書く。
- (5) 作者に手紙調で訴えかけて書く。
- (6) 友人にその本を読むことを薦めて書く。
- (7) 同じようなストーリーの本と比較して書く。
- (8) 同じような作風の作者と比較して書く。
- (9) 同じ作者の作品を調べ、指定の作品を位置づける。

<2>よい感想文としての条件

さらに、次の事項にも留意してみてはいかがでしょうか。

- (1) 作中人物の誰に、どの場面に焦点を合わせているかが、はっきりしていること。
- (2) 感想の焦点が、極端に一部分すぎて、全体との関連に欠けないこと。
- (3) 感情に溺れて、美文調、悲憤慷慨調が過剰となり、内容や真実味が弱くならないこと。
- (4) 作者が、読者に訴えたい点を、立体的に読みこなしていること。
- (5) 作品の内容から離れ、自己主張が強すぎ独善型にならないこと。
- (6) 自己の感動や主張が、作品のテーマを中心にうまくまとまっていること。

<3>最後に以下の点をしっかり点検してみてください。

- (1) 文字は、ていねいに、わかりやすく書けているか。
- (2) 誤字、あて字、脱字、送り仮名の間違いはないか。
- (3) 文のおわりが「である・だった」調と「です・ます・でした・ました」調の併用になっていないか。（どちらかに統一する）
- (4) 段落分けがきちんとできているか。
- (5) 作品のテーマは何であるか、また作品全体からどのような感銘を受けたかについて記述しているか。
- (6) 作品と自分とのつながりに触れているか。
- (7) 引用した文章について、その出典先の情報はもれていないか。
- (8) 自分の名前や学科名を書いているか。

いかがですか？感想文を書くことへの拒絶反応が、少しはやわらいででしょうか？難しく考えず、まずは自分の感じたことを素直な気持ちで書いてみる。それがよい感想文への一歩なのかもしれません。

<参考文献：松尾 弥太郎 編

「読書感想文指導の実際」共文社 発行>

◆ ■ ◆ あ・と・が・き ◆ ■ ◆

最近、どこの大学図書館も学生の利用減少に頭を悩ませている。どうしてなのかと理由を考えると、まずAV機器の普及から読書習慣が少なくなったこと、そしてネットの利用によって、図書館の機能が一応すまえられるようになったことが大きい。大手出版社では、電子書籍を拡充させつつある。昨春に新著を刊行したが、その出版契約書に電子書籍化したときのことが書かれていた。はじめてのことであった。

しかし、極言すればネットや電子書籍で図書館機能が代行できるものではない。字面をみるのが読書することではない。そこには必ず思考がともなわなければならない。ディスプレイからではありえない紙面行間ならではの図書の最大効果です。（館長・木本好信）



編集発行

甲子園短期大学図書館

〒663-8107 西宮市瓦林町4-25

TEL.0798 (65) 3300/FAX.0798 (67) 9101